

学びの場から社会を拓く「福祉」



鳥取県教育委員会事務局社会教育課

係長兼社会教育主事 戸板 正哉

現代社会は、少子高齢化、グローバル化、情報化といった大きな変化の波に直面しています。価値観は多様化し、人々の生活様式も複雑化する中で、私たちは互いを理解し、支え合いながら生きていくことの重要性を再認識しています。この時代において、「福祉」は、社会保障制度の枠組みを超え、すべての人々が人間らしく生きていくために重要になってくると考えます。

例えば、学校教育における「福祉」では、ボランティア活動を体験したり、福祉施設を見学したりすることを通して、子どもたちが多様な価値観を持つ人々と出会い、互いの違いを認め、共生していくための土台を築くことができます。また、学校教育における「福祉」は、授業以外にも多く存在しており、日々の学校生活、そして人間関係の中にも織り込まれているのではないのでしょうか。では、学校教育以外の部分において、地域社会の一員として私たちはどのような学びをしていく必要があるのでしょうか。

社会の変化が加速する現代において、私たちは生涯にわたって学び続けることが不可欠です。この「生涯学習」の視点に立つ時、福祉に関して学ぶことは、特定の職業に就くための専門知識を得るためだけではなく、すべての地域住民が身につけるべき「生きていくための教養」となるのではないかと考えました。例えば、地域で開かれる介護に関する講座や子育て支援講座は、直接的な生活のヒントを提供するだけでなく、参加者同士が互いの悩みを共有し、孤立を防ぐ場となります。学びの場は、参加者の力を引き出し、社会への主体的な関与を可能にするとともに、受け身の知識習得ではなく、自らの人生と社会に主体的に関わっていく力を養う、能動的な学びとなるのではないのでしょうか。

みなさん、近年、学校や地域において、コミュニティ・スクール、また、地域学校協働活動という言葉聞く機会がありませんか。コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは、保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域が一体となって子どもたちの育成に取り組む仕組みです。また、地域学校協働活動は、地域の多様な人々の参画を得て、学校の教育活動や子どもたちの学習・体験活動を支援するものです。学校と地域が連携・協働し、放課後の学習支援や地域行事への参加など、幅広い活動を通じて子どもたち

の成長を支えます。これにより、地域全体で子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを推進します。

鳥取県教育委員会では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を進めており、これらが進むことで、以下のような点で地域における「福祉」がより充実するのではと考えます。

・学校運営協議会では、子どもたちに関する課題を話し合う中で、地域の孤立問題、貧困、子育ての悩みなど、さまざまな課題が共有される場合もあります。学校が地域と一体となって、これらの課題解決に積極的に関わることで、また、関係諸機関と連携して課題解決に向かう中で、地域の福祉機能が強化されます。

・貧困や家庭環境に課題を抱える子どもたちに対し、学校だけでなく地域全体で見守り、支援する体制を構築していくことがあります。例えば、地域住民が放課後の居場所づくりに参加したり、学習支援を行ったりすることで、子どもの育ちを多角的にサポートします。地域住民が「学校応援団」として見守りや安全確保に関わることで、子どもたちの安全・安心な居場所が確保されます。これは、子どもが地域社会の一員として大切にされているという感覚を育み、安心感を与えるという点で、精神的な福祉に貢献します。

・地域住民が学校運営に関わることは、自身の役割や存在意義を再認識する機会となり、社会参加を促します。これは、高齢者や子育てを終えた世代の孤立を防ぎ、ウェルビーイングを高めるという点で、重要な福祉的意義を持ちます。また、地域住民が学校の授業や放課後の活動に参加することで、子どもと高齢者、異なる世代の人々が日常的に触れ合う機会が生まれます。これにより、世代間の相互理解が深まり、高齢者の生きがい創出や子どもの社会性の育成につながります。

学校、または、社会における福祉の学びは、特別な誰かが提供するものではなく、私たち一人ひとりが学び、実践することで、地域に根付いた共生の文化を創り出すのではないのでしょうか。

※鳥取県教育委員会事務局社会教育課では、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等について、SNSで発信をしています。ぜひ、ご覧ください。

YouTube



Instagram



Tik Tok

